

平成 29 年度 第 1 回西宮市環境計画策定部会 議事録（発言要旨）

- 開催日時: 平成 29 年 7 月 26 日(水) 10:00～12:00
- 開催場所: 西宮市役所 本庁 6 階 681 会議室
- 出席者 : 野島部会長、清水副部会長、西明委員、北村委員、服部委員、花田委員、
中島社会教育課長
- 事務局: 須山環境局長
須藤環境総括室長
(環境・エネルギー推進課)山中課長、吉田係長、八木係長、藤原副主査、松井主事
(環境学習都市推進課)藤原課長
(施設管理課)山村課長
(美化企画課)森川課長
(株)地域計画建築研究所(アルパック))畑中、中川、駒

1. 開会の挨拶

- ・ 環境計画策定部会は、西宮市新環境計画の計画期間が平成 30 年度末で終了することから、次期計画の策定作業を行うために設けられた。また、西宮市環境計画推進パートナーシップ会議の専門部会として位置づけされており、重要な役割を担う会議である。委員の皆様には、今後ともご迷惑をおかけすると思うが、皆様の豊富な知識やご経験をもとに、忌憚のないご意見をお願いしたい。(局長)

2. 出席者自己紹介

3. 役員選出

- ・ 事務局提案により、部会長には、西宮商工会議所の野島常務理事に、副会長には、社会福祉法人西宮市社会福祉協議会の清水常務理事が選出された。

4. 環境基本計画を取り巻く社会情勢について（情報共有）

5. 環境基本計画改定の方針（案）について

- ・ 現在の案には、生物多様性、資源循環、地球温暖化という 3 つの目指すべき持続可能な社会の姿を示した上で、快適なまちと良好な環境の 4 つに挙げられている。一方、国の第 4 次環境基本計画は、生物多様性、資源循環、地球温暖化の 3 つの姿と 4 つ目に安心・安全があげられている。次期計画は、快適なまちと良好な環境でいかに、防災の視点を打ち出していく点が重要であると思う。その上で、快適なまちと良好な環境という名前で、市民の方がわかるかどうか気がなった。(委員)
- 最近、局地豪雨でたくさんの被害が出ているように、安全の観点はとても大事な視点であるので、快適なまちと良好な環境にその観点を組み込めるようにしていきたい。(事務局)

- 安心・安全の観点を快適なまちと良好な環境に入れ込んでいくと仰っていたが、言葉の中に安心・安全の観点を盛り込んでいくべきだという意味である。(委員)
- ・ 共通目標の3つについて、学びあい、参画と協働は個別目標を進めていくための姿勢を表しているが、国際協力は視点が違うので、どのようにして入れていくか検討が必要である。(委員)
- 国際協力は、援助活動ではなく、環境問題に国際的な視点を盛り込むのが意図であるが、これから3つの共通目標をどのように表現していくか委員の皆様にも今後ご検討いただければと思う。(事務局)
- 言葉の問題だが、国際協力という言葉の表現に引っかかる。(委員)
- ・ 福祉の分野でも、環境の分野同様、少子高齢化や人口減少の中で、最終的に持続可能な施策統合と人材が問題になってくる。福祉において、地域福祉計画が策定されているが、環境計画ともコンセプトを共通化しておく必要があるのではないか。(委員)
- ・ 防災計画は市民同士のつながりがなければ成り立たない。同じように、人権学習的な観点のない環境学習は、意味をなさないとと思う。そのような関係性を押さえた上で、目標設定をすべきである。(委員)
- ・ 人材育成のイベントで体験したことを、市民自身で、知る→考える→行動までのプロセスに至らないと人材育成の意味がない。自分たちで考えて行動することが大事であることを伝えていくべきである。(委員)
- ・ 近年、パリ協定をはじめ、環境問題は全世界で取り組まなければいけない流れになっているので、国際的な視点は、目標すべてに該当するのではないかと。(委員)
- ・ 地域力を目標として作っても良いのではないかと。自助・共助の観点が大切になってきている中で、地域力は、前回の計画策定時と比べて、大事になってきている。(委員)
- ・ 活動の場毎に目標を立てる方が、市民にとってわかりやすいのではないかと。また、「知る、考える、実行する」のように、市民の行動毎に分けても良いのではないかと。(委員)
- ・ 各目標において、将来子どもたちが、西宮市に住み続けたいと思える環境が基本になってくると思う。どのように環境を守っていくか、また各地域で大事にしている環境や地域の特徴を市民の目に見えるように目標を設定していきたい。(委員)
- ・ 市としても、基本理念は掲げられると思うが、その基本理念と目標がどのように関連していくのか。(委員)
- ・ 兵庫県では、生物多様性を自然共生という言葉で表現しているが、西宮市も大きな括りである自然共生という言葉で表現した方がよいのではないかと。(委員)
- ・ 今回出た、快適なまちと良好な環境に防災・減災の視点を入れた上で、表記をどうするのかや国際協力の文言の表現、地域力や人材育成等に関しては事務局で議論した上で、提案していただきたい。(委員)
- ・ 豊岡市の環境基本計画はわかりやすいと思う。この計画の特徴としては、進行管理の中で、目指すべきまちの姿を目標にしている。(委員)
- ・ 豊岡市の計画(「子どもが安心して道草をしながら帰ります」や「コウノトリが全ての中学校区に住んでいる」など)では、人と人とのつながりや豊岡市の誇りというものを強く感じる。

(委員)

- ・ 西宮市の計画でも、自分事と思える・市民に誇りを持ってもらえるように工夫していただきたい。(委員)
- ・ 数値目標を立てることは大事なことと思うが、ただ目標を立てて、達成できた・できなかったで終わるのではなく、次に活かせるようにしっかりと PDCA サイクルで回せるようにすべきである。(委員)
- ・ 誇りに思える目標を作成するにあたり、森・川・海がつながっていることや他市と比べて、自然が豊かであるような西宮市の特徴を出せるよう工夫すべきである。地域で自分たちの足場にあるものを大切にしようと思っていただけると、自分事として行動していただけるのではないか。(委員)
- ・ 尼崎市の環境計画でもあったが、「〇〇を把握していきます」という言い方は、何も響かないと思う。「把握していきます」ではなく、具体的に数値でない言葉を使って言い換えるのであれば、言い換えた方が良いと思う。(委員)
- ・ 計画期間は 10 年で、中間の 5 年目に方向性の見直しを設けた方がよい。(委員)
- ・ 「豊岡市の目指すべきまちの姿がわかりやすい」、「誇りを持てるような環境計画を立てる」、「計画期間は 10 年で、中間年度である 5 年目に見直しを行う」等の意見が出た。(委員)

6. 市民・事業者意識調査案について

- ・ 市民アンケート、事業者アンケートにおいて、選択肢の「どちらでもない」を削除すれば、回答者の本音の部分が出やすいのではないか。(委員)
 - ・ 一般市民の回収率に関しては、どの程度と予想されるか。(委員)
- 市民アンケートについては、3 割から 4 割を想定している。また、インターネットに関しては、サンプル数 300 は回収できるとしている。(事務局)

7. ワークショップ案について

- ・ ワークショップのお題③のおおむね 40 年後とあるが、40 年後、主軸の年代である小中学生は参加対象にならないのか。(委員)
 - ・ そもそも、なぜ 40 年後なのか。今世紀の中間点で考えると、あと 30 年後である。なにか 40 年に設定した理由はあるのか。未来志向なら 30 年で十分ではないか。(委員)
- ご意見を踏まえて検討する。(事務局)

8. 連絡事項

- ・ 環境計画推進パートナーシップ会議は、10 月 18 日の午前中を予定している。(事務局)
- ・ 環境計画策定部会は、10 月下旬から 11 月上旬を予定している。(事務局)